

第63回「北海道私立専修学校各種学校教育研修大会」 (全国専修学校各種学校総連合会北海道ブロック会議)

開催日・開催場所

令和3年10月13日、京王プラザホテル札幌(札幌市)において「令和時代の職業教育を考える」を大会主題に掲げ、第63回となる教育研修大会を開催いたしました。(主管：札幌支部)

新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年度の開催が中止となりました。今年度も開催が危ぶまれましたが、感染防止対策を講ずるとともに、日程を例年の2日間から1日に短縮しての開催となりました。



開会式



道内専修学校各種学校関係者48名の出席のもと、まず、大会長である吉田松雄北専各連理事長があいさつに立ち、「新型コロナウイルス感染症の影響により開催できるか懸念されたが、開催日を延期するなどして今日を迎えることができた」と開催の経緯を説明し、続けて「本研修会を期に、再び若者のため、職業教育のため皆さんと歩んで参りたい」と述べました。

続いて、本大会の実行委員長である布川耕吉札幌支部長から、今大会では専修学校等を取り巻く様々な状況に即したプログラムを用意したとして、各プログラムの概要の紹介がありました。

この後、全国専修学校各種学校総連合会の福田益和会長からご祝辞をいただき、講演に移りました。



講演

講演Ⅰ

演題「専修学校・各種学校をめぐる最近の動向」

講師：文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課

専修学校教育振興室 専門官 船木茂人様
船木茂人様からは、①令和4年度専修学校関係予算概算



要求 ②新型コロナウイルス感染症への対応 ③専修学校 #知る専 ④職業実践専門課程等を通じた専修学校の質の保証・向上 ⑤リカレント教育 ⑥修学支援新制度とい

った文部科学省の取組を中心にご説明いただくとともに、コロナ禍にあって、新しい日常に対応しながら、今後の学校運営や教育の改善につなげていただきたいとのお話をいただきました。

講演Ⅱ

演題「専修学校・各種学校の現状と課題」

講師：全国専修学校各種学校総連合会

参与 菊田 薫様

菊田薫様からは令和3年度の全専各連の取組のうち、



特に重点目標とした①新型コロナウイルス感染症対策の強化 ②職業教育体系の確立と専修学校・各種学校の振興方策の実現 ③専修学校・各種学校制度の充実・改善

④学校運営の強化・健全化と教育の質保証・向上に向けた取組の推進 ⑤全専各連・都道府県協会等の組織強化・活性化に関するご説明をいただきました。

このうち、職業実践専門課程の取組に関しては、国の財政支援措置の時限に対する取組の動向について説明があるとともに、職業実践専門課程の認定を受けている専門学校に対して、一層の質保証の向上について依頼がありました。

講演Ⅲ

演題「with/after コロナの北海道の新たな戦略」

講師：北海道経済同友会 顧問

株式会社北洋銀行 顧問 石井純二様

石井純二様からは、まず、コロナを契機とした社会経済活動の制限や人々の意識、行動様式の変容は、様々な業種、業態に影響を及ぼし、新たな価値観や生活様式が生まれつつあるとしました。そして今後も私たちの生活を脅かすことが起こりえることが



予測され、人々に持続可能性への意識の高まりと地球環境問題の重要性の再認識をもたらしたとしました。

これにより新しい社会像や社会的価値観に対応したビジネスモデルを構築していかなければ、アフターコロナの世界で持続的な企業とはなり得ないとのお話がありました。

このためには、北海道の特性を活かし、多様な働き方や暮らし方を包摂する持続性のある社会経済構造の確立を目指す必要があるとし、具体的な課題や提案をお示しいただきながらご講演をいただきました。

閉会式

北専各連の浅井洋子副理事長から、ご講演いただいた



方々への感謝を述べるとともに、2年間のコロナ禍の時代のなか、この研修会で得られた知見を今後

に生かしていくとの挨拶で閉会しました。

令和3年度事業報告

次世代人材職業体験推進事業

北海道の補助事業により、職業体験の機会が少ない中学生を対象に、若年者に不足している職業観、勤労観に対する理解促進を目的とした職業体験を開催しています。

令和3年度は令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により、前半は感染者数の増加で開催講座数、受講者数ともに大きく減少しましたが、10月以降は感染者数の減少に伴い申込みが増加しました。しかし1月に感染が再拡大したことで、令和2年度と同じくらいの開催実績となりました。

開催内容を見ると、昨年度に引き続き、札幌での受講が減少した一方で、旭川や函館、北見などの専門学校を訪問して受講する中学校が増えました。

この事業は、中学生が仕事や職業について体験し考えるための貴重な機会となっています。令和4年度においても、新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じながら、引き続き取り組んでまいります。



年度	申込中学校	開催講座数	受講生徒数
R01	274校	1,757講座	13,461人
R02	96校	622講座	4,356人
R03	92校	480講座	4,428人

進路探究学習オリエンテーリング事業

北専各連札幌支部では、中学生の学習意欲を高め、自立した社会人へと成長していくために必要な勤労観・職業観を身につけ、より主体的に学ぶ力を育むことを目的に、平成25年度から札幌市の提唱する進路探求学習オリエンテーリング事業の実施に協力しています。

令和3年度は実施期間を夏休みから冬休みまでの間（令和3年7月26日～令和4年1月29日）、各体験講座を3期に分けて募集を行いました。また、今年度から全中学生がタブレット端末を1人1台持つこととなったため、冊子での講座一覧は制作せずにWEB上で閲覧していただくことといたしました。

今年度は56校の札幌支部会員校から100講座が提供され、札幌市立中学校等100校のうち98校から1,569名（昨年1,274名）の受講申込があり、そのうち受講決定者は1,143名（昨年1,001名）で、実際の受講者は906名（昨年802名）となりました。また、保護者の見学者数は324名（昨年372名）でした。受講した生徒の皆さんの満足度も高く、また、見学された保護者の皆さんからも高い評価をいただいております、引き続き充実した職業体験ができるよう取り組んでまいります。



年度	実施講座数	参加中学校数	参加中学生数	参加保護者数
R01	83講座 86コース	95校	1,083人	463人
R02	81講座 84コース	96校	802人	372人
R03	92講座 95コース	98校	906人	324人

2021（第50回）専門学校等進路相談会

3月から4月にかけて北見、釧路並びに札幌を会場として2021年度専門学校等進路相談会を開催しました。

ジョブカフェ北海道のご協力をいただいて、カウンセラーによる「職業興味検査コーナー」や「職業相談コーナー」を設けるとともに、日本学生支援機構による「奨学資金説明会」を同時開催し、高校生や保護者の皆さまにご利用いただきました。

札幌会場は「NPO 法人高校生進学支援の会」との共催で、専門学校65校、大学・短大32校が参加しました。

2022年は4月28日に札幌会場での開催を予定しています。



開催地	開催日	参加学校数		来場者区分（人）						
		専門学校	大学	生徒	父母等	教員	計	職業興味検査・相談コーナー	進学マネー講座	日本学生支援機構奨学資金説明会
北見	3月18日(木)	50		108	5	21	134	19		32
釧路	3月19日(金)	48		55	1	3	59	7		12
札幌	4月28日(水)	64	32	526	124	18	668		230	

高等学校内キャリア教育プログラム



高等学校内におけるキャリア教育・職業教育の支援を目的として、「専門学校講話」「職業・職種講話」「体験型授業」「校内進学相談会」の4つのプログラムからなる「キャリア教育プログラム」を全道で展開しています。令和3年度に開催した高校は延べ40校で、2,455名の高校生等が受講されました。引き続きコロナ禍ではあるものの、高等学校における積極的なキャリア教育により、多くの高校からご活用いただきました。

令和4年度の受付は4月1日より行っています。詳しくはホームページをご覧ください。

●職業・職種講話

高校名	高校名
岩見沢東高等学校定時制	羽幌高等学校
小樽未来創造高等学校	東川高等学校
札幌西高等学校定時制	美幌高等学校
札幌平岡高等学校	福島商業高等学校
白老東高等学校	湧別高等学校
名寄産業高等学校	蘭越高等学校

●体験型授業

高校名	高校名
厚真高等学校	札幌西高等学校定時制
池田高等学校	大樹高等学校
石狩翔陽高等学校	千歳高等学校定時制
岩内高等学校	月形高等学校
岩見沢東高等学校定時制	弟子屈高等学校
江別高等学校定時制	深川西高等学校
追分高等学校	福島商業高等学校
小樽双葉高等学校	余市紅志高等学校
上富良野高等学校	

●専門学校講話

高校名	高校名
芦別高等学校(教員・保護者)	大空高等学校(保護者含む)
岩見沢西高等学校	遠軽高等学校
大麻高等学校	札幌日本大学高等学校

専門学校勉強会

高等学校教員の方々に職業や資格、専門学校に関する情報など、進路指導や職業選択に役立つ情報をご提供することにより、生徒の進路指導のミスマッチを防止、個々の生徒の希望に応えた職業の選択を実現しようとする取組です。

今年度は高等学校を単位として5回の勉強会を開催しました。

参加した教員の皆様からは「具体的な情報を得ることができた」「進路指導に役立つ情報を入手できた」などの評価をいただいています。



【専門学校勉強会の概要】

- 対象：高等学校の教員の皆さま（数名単位でも開催できます）
- 必要時間：90分～120分程度
- 開催場所：校内の会議室等をお借りします
- 説明校：連合会の「専門学校理解向上実行委員会」担当校の職員がご説明します
- 開催例：高校内教員研修会で、学年団で、進路指導教員を対象に、希望教員数名で… など
- 経費負担：開催に伴う経費のご負担はありません

申込みから開催まで

- 1 校内で実施確認／日程調整
- 2 専修学校連合会へ申込み
- 3 事前質問のまとめ
- 4 勉強会の開催

【令和3年度開催実績】

札幌新陽高等学校、南幌高等学校、南富良野高等学校、中標津農業高等学校、芦別高等学校、北海道大空高等学校

専修学校概要・進学ガイドの発行

専修学校に関する様々な情報を盛り込んだ冊子を刊行しています。

進学ガイドは高校生等が進路選択や学校選びを行う際のガイドとして、仕事ガイドとセットで刊行しました。2023年版は9月刊行予定です。

また、専修学校概要は高等学校教員による進路指導の際に役に立つ、専修学校に関する詳細な情報が盛り込まれた資料です。2023年版は4月刊行予定です。



進学ガイド・仕事ガイドには、進路や職業選択の検討に役立つ記事が満載です



教員能力認定研修会

北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会では私立専修学校各種学校教員の資質の向上を図り、優れた教員の確保に資することを目的に、教員能力認定研修会を毎年開催しています。

また、平成28年度から北海道の指定を受け、北海道知事が発行する「研修修了証明書」並びに「教員資格証明書」を得ることができ、「職業実践専門課程」の認定要件である研修会としても活用できる研修会となりました。

令和3年度は7月26日～30日と8月2日の6日間にわたり、17校から延べ327名の受講をいただきました。

令和4年度も引き続き開催を計画しておりますので、多くの教職員並びに教員を志望する皆さまの受講をお願いいたします。

【令和3年度開催実績】

研修日	科目	担当講師
7月26日(月)	教育概論	井上大樹(札幌学院大学准教授)
7月27日(火)	専修学校教育論	大山節夫(学校法人吉田学園学園長)
	総合自由科目Ⅰ	神田裕子(オフィスレアリーゼ代表)
7月28日(水)	教育方法論	前田賢次(北海道教育大学札幌校准教授)
7月29日(木)	教育制度論	木村純(北海道大学名誉教授)
	職業教育論	加賀千登世(プランナー・コピーライター)
7月30日(金)	総合自由科目Ⅱ	吉田聡子(北海道クリエイティブ(株)代表取締役)
	青年心理学	山谷敬三郎(北翔大学・北翔大学短期大学部学長)
8月2日(月)	教育心理学	北守昭(EWS感性科学研究所代表)



文部科学大臣認定 職業実践専門課程に係る研修会

■職業実践専門課程とは

専門学校のうち企業等と密接に連携して最新の実務の知識・技術・技能を身につけられる実践的な職業教育に取り組む学科を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度です。

■職業実践専門課程に係る研修会

職業実践専門課程の認定要件である「教員に対する研修・研修機会の確保」のため毎年実施している研修会で、教育に役立てることができるテーマを設定して開催しています。

令和3年度職業実践専門課程に係る研修会開催実績

■第1回

- ・日時：令和3年8月3日(火) 15:00～
- ・会場：札幌ガーデンパレス
- ・講師：前田賢次氏(北海道教育大学札幌校准教授)
- ・演題：「いま、求められている・求めたい教育の間で
－新型コロナ下の状況を踏まえて－」
- ・参加者：49校 174名



「教員能力認定研修会」「職業実践専門課程研修会」のいずれも、会員校以外の専修学校、各種学校の教職員の方々も受講できます

■第2回

- ・日時：令和3年12月23日(木) 14:30～
- ・会場：札幌ガーデンパレス
- ・講師：神田裕子氏(オフィスレアリーゼ代表)
- ・演題：「この子、ちょっと変わっている…と感じた時の
支援法～普通と以上の境界線ってなに?」
- ・参加者：60校 212名

令和3年度教員能力認定研修会 レポートの講評と優秀レポート

教員能力認定研修会の研修科目のうち「教育概論」と「教育心理学」はレポート審査を行い、合格することが認定の条件となっています。この科目を受講した方には、出題されたそれぞれのテーマで800字のレポートを手書きで作成し、提出いただいています。

令和3年度は「教育概論」35名、「教育心理学」34名からレポートを提出していただいた結果、提出者全員が合格となりました。審査を行った審査委員（担当講師）のレポートの講評と、教員能力認定委員会において優秀レポートとして選出されましたレポート4編をご紹介します。

■「教育概論」審査委員、担当講師

井上 大樹（札幌学院大学准教授）

■レポートのテーマ

社会的自立に関わる今の若者の困難の実態を説明し、これからの社会的自立の条件及び専門学校で重点すべき教育実践について自分の見解を述べる

■講評

今年度の講義は、昨年度に引続き新型コロナウイルス感染症対策のため、アクティビティが実施できず、希望者のみスマートフォンによる意見交換にとどまった。意見交換も十分に紹介できず、受講者が日ごろから抱えている思いとこの講義で得た情報・知識の整理が不十分中でレポート課題に取り組んでいただくこととなった。

レポート課題については指定されたテーマ、構成があり、これに基づいて自分の意見を交えてまとめるのが基本である。基本的な原稿用紙の使い方、段落分け、誤字脱字の確認などについては、「学生」に指導する機会が頻繁にあることを鑑みれば、この点では「手本」を見せてほしかったところである。

例年、基本的な文章の書き方には学生受講者、教員受講者の差はなかったが、今年度は学生受講者に文章力不足、推敲不足の答案が目立った。毎年の残された課題ではあるが力作であっても、前半の社会的自立に関わる課題に分量を割りすぎ、これから求められる専門教育（専門学校・各種学校・専修学校）実践について、オリジナリティあふれる提起にまで至らなかったのは残念である。

ただ、今年度は2年ぶりにレポート選集に学生受講者、教員受講者各1名ずつ掲載に至ったが、専門教育実践に対する論考が良くまとまっていた点を評価した。

改めて、この講評の要因は講師の講義やレポート指導の問題があることを反省し、私自身「ポストコロナ」に向けた講義改善に精進したい。

優 秀 レ ポ ー ト

北海道芸術デザイン専門学校 堀尾美羽（学生）

社会的自立に関わる今の若者の困難は、近年の長期の景気低迷により、企業等が若者の雇用を抑制し、学校からの雇用への移行もかつての円滑さを失い、若者の経済的自立に向けたルートが不明確になっていたり、人々が多様な生き方を模索し、卒業、就職、結婚、子育て、というライフコースが既に明白とはいえなくなる中で、若者にとって職業を得てから親から自立することの意義自体が分りづらくなっている。

これからの社会的自立の条件は、就業による職業的自立という課題と、親からの精神的、経済的自立という課題とがみられるが、問題はさらに、若者が日々の生活において自立しているかどうか、社会に関心を持ち、公共に参画しているかどうかなど、多様な課題を含んでいる。だが、これらの課題は若者の自立について判断する際の共通の視点であり、自立の在り方は一様ではない、すなわち、自立しているかどうかは、個人個人について、その置かれた家庭環境、経済状況等の社会的状況に応じて判断されるべき問題であり、自立に至る精神的成熟の速度にも個人差があってしかるべきものであると考えられる。このように若者が自立するための条件というものは、常に一人ひとりにとってふさわしい在り方があると考えられる。

専門学校で重点にすべき教育実践は、参加型授業を推薦させ、学生の本音や思いを引き出し、自分の意見や考えを表現できる機会をつくることで周りとの交流や関係づくりを行うことができ、将来のことや専門的な知識をより深め合うことができるような環境を学校側がつくっていき、学生の意欲を向上させ、将来やりたいことを見つけてもらえるような教育をしていくことを重点に置くことが重要であると考えられる。

北海道農業協同組合学校 中島清浩（教員）

戦後の高度成長期に成立した「戦後青年期」は、新規学卒就職という制度により、学校から社会への移行がスムーズに行われた。また、終身雇用制度の中で、学校卒業・就職・結婚・子育てといった一元的ライフコースがあり、若者は将来の自分の姿を容易に描くことができたと考えられる。しかし、バブル経済の崩壊した1990年代の後半からは新規学卒就職率の急速な低下とその裏側でのフリーター、学卒無業者の増大により学校から仕事への移行過程は大きく変化した。その背景には、正規雇用の削減と非正規雇用の増大を中心とした雇用構造の変化がある。さらに、学校から仕事への移行過程の個別化・個人化・長期化に伴い、ライフコースも多様化し、自分の将来像を描きにくくなった実態にあると考えられる。

こうした若者が社会的に自立していくためには、社会の一員として自覚を持ち、しっかりとした人生観を持つことが必要であると考える。自分はどうありたいのか、将来像を描く際に、大きな流れの中に浮遊するのではなく、自らが主体性を持って深く考え自分の人生に責任を持つことが自立の条件と考える。

今後の専門学校で重点にすべき教育実践は、多様な学生が社会とつながるために必要なサポートを行うことである。例えば企業との連携により実践的な知識を入手したり、インターンシップにより職業観を持たせることが考えられる。このような実践的な内容を入学1年目から積極的に行うことで、普段学んでいる内容がいかに社会に直結しているか実感してもらう機会になると感じる。

学生には一人一人の実情やニーズに合わせ、自主性を尊重することが大切であり、時には職業経験を持つ専門学校教員の生きたアドバイスも必要であると考えられる。また、教員同士で連携し、それぞれの生徒に対して多面的に働きかける取り組みを強化すると、より学生が内から外（社会）へ向ける意識が高まると考える。

■「教育心理学」審査委員、担当講師

北守 昭 (EWS感性科学研究所代表)

■レポートのテーマ

これまでの社会生活とは異なる現況(新型コロナウイルス禍)において、この1年間に感じたこと、気づいた点があればこの機会にまとめて下さい。その上で、来るべき時代においてどのような社会を望みますか？そこに課せられる教育課題と教育の役割について個々人に焦点を合わせて述べて下さい。

■講評

この1年間、新型コロナ感染症の拡大は、家庭、学校、企業を含む社会生活を一変させました。個人の行動制限のみならず、人間にとって必要不可欠な対人交流、そして教育の機能システムも変更を余儀なくされました。これまでの当たり前が当たり前でなくなった社会、このような状況において様々なことを経験し、気づき、感じてきたはずで

ここで一度、立ち止まって、気づいたことと教育課題を見つけ新たなスタートにつけたらとの思いで、今回、上記のテーマを設定しました。

第一に、自分自身の振り返りと、気づきを大切にすること、そして、次の社会につなげていく視点。

第二に、このような社会状況の中で、新たな教育課題を見つけ、教育(教師)が果たすべき役割は何かを提案すること。この2点について、総合的に評価しました。その結果、34名全員、基準値(合格ライン)に達しました。

第一点目に関して、幾つか挙げてみますと、仲間とのコミュニケーション不足や経済的困窮など先の見えない孤独感や不安、授業システム(オンライン授業)におけるモチベーション維持や進捗の問題、一方で、自分自身を振り返り、考えるよい機会(趣味、資格取得、副業、家族との時間)として捉えたい、など述べられていました。

一方、教育課題として、受講者にとって遠隔、オンライン、対面授業と行動の選択肢が増えた一方、バーチャルな情報知識に偏り、人間形成の根幹となる失敗や成功と言った経験の蓄積、技術の習得に新たな課題が出てきた。また、このような状況が続くと自然なコミュニケーションの発生がなくなり、人間関係の構築と『社会性』をどう身につけるか、などの課題が提示されて

いました。そこで、教育(教師)の役割として、不測の事態でも平等に質の高い授業を作る責任と自覚、及び価値ある授業(意味ある授業や教え)の構築、学生は能動的に、教師は学生の興味を引く話題づくり、及び学生個人の心に向き合うこと、これらを通して、学校は必要な技能の習得に加え、将来を予見する力(課題対応能力)、人格形成、社会への貢献、自己表現を提供する場になる、がありました。

優 秀 レ ポ ー ト

北海道芸術デザイン専門学校 堀尾美羽 (学生)

これまでの社会生活とは異なる現況において、この1年間に感じたことは、普段の生活は、学校で授業を受けたり、外出することやあたりまえだったことが制限され、リモート授業が多くなり、今まで通りの生活ではなくなったことで生活習慣が乱れるなど様々なことが起った。

気づいた点は普段の生活ではなくなったが、今まで行っていたことが出来なくなっても、リモート授業や食品宅配サービス等により、家から出ることなく生活できている。それは学校側がリモート授業にできるような対応をしてくれていた、宅配してくれている人がいるから生活が出来ているんだと思った。

その上で、来るべき時代において望む社会は、今までの生活には戻ることにはないが、コロナウイルスが広まってからリモートワークや家にいる時間が増えたことで趣味に没頭できる時間や、新しいことにチャレンジする時間というものもできるようになったことで、新しい資格を取ったり、在宅しながら副業することもでき、外出もしないことで家族で過ごす時間も増えたので、仕事に追われていた人達も休むことが出来るので、社会や学校に行くときの通勤、通学で取られる時間を作業に回すことができたり、家に居ることで休憩する時間がよりリラックスできるようになったと考える。これからの社会は家にいる時間というものをもっと有効に活用できる社会を望んでいる。

そこに課せられる教育課題と教育の役割は私自身が学生として生活しているので、実習の課題が多く、リモートだと課題が思い通りに進まないことが多い、よってコロナ禍で課せられる教育課題は、学生とのやり取りが円滑に進んでいないことだと考える。そのようなことから、心身的な問題を抱える学生が増えているため、自宅学習での適切な対応や心のケアを図ることが教育の役割だと考える。

北海道文化服装専門学校 山岸圭吾 (教員)

新型コロナウイルス感染症の拡大により、社会全体の仕組みが変化し、私たちのライフスタイルや働き方は急激に変化している。このような状況で教育の場はどのようなことが求められるのだろうか。

私はこのような社会を生きるために、学生には独立可能な個の力を持つよう教育する必要があると考えている。

現在のコロナ禍社会は人々の対面の時間を減らすことが日常となり、基本的に仕事からコミュニケーションまでを遠隔で行うようになった。コミュニケーションまでもが遠隔化したことにより社会的孤立のリスクが高まり、コロナ禍に対する不安も大きくなり、精神的な影響を強く受けると感じている。

しかし、この遠隔化は悪いことばかりではなく、遠隔で何かを行うという概念が一般化したことにより、今まで技術や知識はありながらも広める力がなかった人材が前に現れやすくなったと考えている。現に技術力を持った個人がオンライン上で講義を配信し、何十人も受講者を集めている例などがある。以前までは会場の用意や遠方の人は参加が難しいことがネックとなり実現できなかったことである。

新型コロナウイルス感染症の流行が収束し、コミュニケーションが対面で可能となっても、遠隔で何かをするという概念は浸透し続けてほしいと考えている。

私は今後、場所にハンデを抱えることなく働くことができ、それぞれの持つ技術や知識を簡単に広く伝えることができる社会が訪れることを望んでいる。

コロナ禍が与える経済の影響は大きく、雇用の安定性を保証することも難しい場合がある。そのような状況下でも行動を起こせる知識と技術を持った独立性のある学生を育てることが今後の教育の役割ではないだろうか。

現在は就職が最終目標という考えが一般的だが、そこで終わりではなく自分の可能性を磨き続け発信する姿勢を知識や技術とともに指導していくべきである。

令和4年度事業計画

本連合会は、北海道の私立の専修学校及び各種学校における教育の振興を図り、もって教育水準の向上発展に寄与することを目的として、令和4年度において私立専修学校各種学校に関する研修会を始めとする職業教育を行う専修学校各種学校の支援等に繋がる各種事業を展開いたします。

公1事業

北海道内の職業教育の充実を図ることによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 「北海道まちかど学園」事業の実施

生涯学習社会を迎え、「誰もが、いつでも、どこでも、何でも学び生き生きとした社会を創る」ことを目的として、道民を対象として道内各地の専修学校各種学校を活用した公開講座を開講します。

(2) 北海道高等学校進路指導協議会等との連携事業

進路指導を行う高等学校の教職員等に、専修学校や各種学校が提供する職業教育への正しい理解をもってもらうことを目的として、北海道高等学校長協会(公私立)及び北海道高等学校進路指導協議会と連携し、高等学校の進路指導担当教員と専修学校等の教師を対象とする研究会や情報交換会、進路指導相談会等を開催・実施します。

(3) 高校生向け出前事業

職業体験等を通じてキャリア教育の推進・充実を図ることを目的として、高等学校と連携し、より多くの高校生を対象に高等学校内キャリア教育プログラムを実施します。

(4) 次世代人材職業体験推進事業の実施

若年者の職業観、勤労観の形成不足等による地域社会の課題の解決に向けて、職業体験の機会に恵まれない中学生を対象に職業体験講座等、専修学校を活用した職業体験支援事業を展開します。

(5) 進路指導相談会の開催

北海道高等学校長協会及び北海道高等学校進路指導協議会と連携を図り、新規学卒者(高校生)、キャリアチェンジを希望する者(社会人、短大大学生)、定職に就くことを希望する者(フリーター、派遣職員等)、保護者、教師等を対象に、就ける職種や職業を考える場を提供するとともに、各分野の会員校が有する職業及び職業教育情報並びに専修学校等に関する情報等を提供します。

(6) 各種刊行物の刊行

- ・高校生が進路として見出した専修学校等が何を指して職業教育を行うところなのか等を見極め、高校生や進路指導の教師が正しい理解を得るために、「進学ガイド」を発行します。
- ・高等学校教員に専修学校が提供する職業教育のカリキュラム等の内容を正しく知っていただき、高校生の進路のミスマッチがないよう指導していただくために、「専修学校概要」を発行します。

(7) インターネット事業

インターネット上に、ホームページを開設することにより、広く一般に当連合会の活動や私立専修学校各種学校における職業教育への理解を深め、誤った進路選択を是正するとともに、私立専修学校各種学校の振興発展に資することを目的として情報発信を行います。

公2事業

北海道内の私立専修学校各種学校を支援することによって、北海道における教育文化の高揚に資する事業

(1) 教職員の資質向上事業

職業教育の充実と教職員のさらなる資質向上を図ることを目的として、より多くの参加者を募って教育研修大会を開催します。

(2) 教職員退職手当給付事業

教職員の待遇面における格差を是正し、職業教育を提供する優秀な人材を確保するとともに、専修学校各種学校の教職員が安心して教育活動が行うことができる環境を整備するため、設置者(校)に対する支援を行います。

研修事業への協力

教職員の資質向上や専門学校への質保証向上のため、北海道私立専修学校各種学校教員能力認定委員会が開催する教員能力認定研修会や職業実践専門課程に係る研修会の開催に協力します。

令和4年度予算は公益社団法人北海道私立
専修学校各種学校連合会のホームページ
(<https://hsu.ac>) でご覧ください。

要望活動等

●国に対する要望活動

令和3年12月11日に「自由民主党北海道支部連合会政策懇談会」が開催され、私立専修学校が抱える懸案事項の解決に向けて、次の3項目を要望しました。

- ・職業実践専門課程認定制度の推進と認定課程のある専修学校に対する新たな財政支援措置
- ・既存大学等に準じた新たな財政支援措置
- ・施設に対する恒久的な災害復旧補助制度の創設

●北海道議会意見書の採択

令和3年第4回定例道議会において「私立専修学校等における専門的職業人材の育成機能の強化等を求める意見書」が採択され、内閣総理大臣、関係大臣に提出されました。

●道に対する要望活動

令和3年10月14日に「自由民主党北海道支部連合会団体政策懇談会」が開催され、私学団体が一堂に会して各団体が抱える懸案事項の解決に向けて要望しました。北専各連からは、次の5項目を要望しました。

- ・管理運営対策事業補助金の増額
- ・職業実践専門課程認定課程認定校に対する新たな財政支援措置
- ・教職員退職資金給付事業補助金の増額
- ・高等課程生徒に対する授業料軽減措置の拡充
- ・職業実践専門課程認定教員研修事業補助金の継続

また、道総務部に上記5項目を、経済部に次世代人材職業体験推進事業補助金の増額等を要望しました。

●札幌市に対する要望活動

令和3年11月11日に「自由民主党札幌市支部連合会政策要望懇談会」が開催され、札幌市教育委員会から北専各連札幌支部が受託している「進路探究学習オリエンテーリング事業」について、より多くの中学生が受講できるよう事業内容と財源の拡充を要望しました。



令和3年度受章者

令和3年度に北海道社会貢献賞を受賞された方に対し、その栄誉を称え心から祝意を表しますとともに、会員の皆様に受章者の功績をご紹介します。

北海道社会貢献賞 (私学教育功績者)

学校法人土岐学園
専門学校北日本自動車大学校

副校長
山田 恵一 氏

氏は、昭和60年4月の同校創設時から教諭として職業教育に携わり、同校広報部長を経て、現在は副校長として永年にわたり地域の産業や企業が求める優れた職業人を輩出するとともに、職業教育の充実と発展に貢献してこられました。特に平成20年には4年生の一級自動車整備士養成課程を設置、平成26年には文部科学大臣から「職業実践専門課程」認定などの職業教育の質の向上や学生の高度な学習環境の整備に尽力してこられました。

また、地元教育委員会専門員などの要職を務め青少年の健全育成に貢献されるとともに、北専各連の各種事業を通じて高校生や教員に対する職業や専門学校の理解向上に努めるなど、本道の私学教育及び専修学校教育の振興発展に貢献されました。

支 部 だ よ り

札幌支部

支部長/布川 耕吉

日頃より、札幌支部への多大なるご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、札幌支部ではコロナ禍の影響を受けつつも、体育事業をはじめ、札幌市教育委員会の提唱する進路探究学習オリエンテーリング事業など、皆様のご協力により以下の事業を実施することができましたので、報告いたします。

■第62回さっぽろライラックまつり■

オンラインで開催された「さっぽろライラックまつり」に専門学校生がライラック娘として協力いたしました。ライラックまつりの華やかな雰囲気を伝えることができました。

■体育事業 フットサル大会■

12月1日に北ガスアリーナ札幌46でフットサル大会を開催しました。



6月に開催予定だったバスケットボール・バレーボール・卓球・バドミントン大会は残念ながら、中止いたしました。

■現職教員新年研修会■

令和4年1月11日に札幌ガーデンパレスにおきまして、



落語家の桂枝女太(かつらしめた)氏をお招きし、新年研修会を開催しました。桂氏から、言葉の持つ重み、言葉の大切さを教えていただきました。

例年、研修会終了後に行っていた新年交礼会は中止いたしました。

■進路探究学習オリエンテーリング■

令和3年7月26日から令和4年1月29日までの期間、札幌支部会員校51校が92講座を実施いたしました。札幌市立中学校等98校から1,569名の申込みがあり、906名の方が参加いたしました。

最後に、コロナ禍の1日も早い終息を願うとともに、会員校の皆様のみますますのご健勝を心からお祈り申し上げます。

函館支部

支部長/奥 ひろみ

日頃より函館支部にたいしまして、ご支援、ご指導を賜り厚くお礼申し上げます。

令和3年度も引き続き新型コロナウイルスの感染対策に追われた1年になりました。感染者数が比較的低めに

推移していた函館市でも、第6波の急激な増加に戸惑っております。令和3年度末まではあと少し。各支部の皆様におかれましては感染予防に努められ、お元気で過ごされますようお願い申し上げます。

さて、函館支部では年度末に計画しておりましたバスツアーの中止を早々に決断し、小規模分散型の相談会の開催を模索しておりましたが、やはり実施困難と判断し、急遽計画を変更して道南地区高校生向け学校紹介動画付きの冊子を作製しました。資料作成や学生インタビューなど、期間が短い中ご協力くださった加盟校に感謝申し上げます。

また、12月に久方ぶりに開催した教職員対象の研修会では、北海道特別支援教育センターから講師をお招きし、学習障害について学ぶ機会を得ました。以前は学生募集のヒントになるような研修が多かったので、教育に関する研修の評価が気になるころでしたが、大変好評でしたので、次年度以降も継続したいと考えております。



このように事業計画通りに進まないことに慣れてしまいましたが、その都度加盟校で臨機応変対応できることは支部の特徴でもあります。

しかしコロナ禍の経験により、徹底した感染対策とリモート授業のスキルを習得できたことはプラスの要素ではないでしょうか。対面授業を主体としながらリモートでの授業や、ハイブリッド型授業など、2年前には思いもしなかった多様な教育ができるようになりました。

函館市では、GIGAスクール構想による義務教育機関への『1人1台タブレット端末』が整備されました。それによって数年後にはICTを活用した教育を受けた学生たちが入学してくることでしょう。

私たち専門学校も、多様な教育に柔軟に対応できるよう、今から備えておかなければと心構えも新たにしているところです。

空知支部

支部長/齋木 修二

日ごろより当支部の運営におきまして多大なるご支援を賜り、心よりお礼申し上げます。

過去、類を見ないコロナ禍の中で業種を問わず大変な苦勞を感じているところ。そうしたなかで地域の経済に多大な寄与をしていた企業が撤退を余儀なくされ、大きなダメージを受けたところもあります。誰もが大きな損失を覚悟した中で、行政と地域が様々な手立てを考え、その街の持つ潜在力を掘り出し、眠っていた既存の素晴らしい面を打ち出すことに成功し、被ったダメージをも上回る経済効果を出した例もあります。

また、その地域だけでは解決できない問題点をかかえた案件も、広くアイデアを募集することで日本中に

サポート部隊が広がり、クラウドファンディングによる資金調達も成果を上げ、問題点をひとつずつ解決していき、地域の活性化に成功している例も出ています。

私たち教育に携わる者も、少子高齢化の波や経済活動消沈の影響を受け大変な時期ですが、いまこそ地域一丸となって努力する必要があります。

空知支部では、地域の高等学校や中学校と密接な連携をとるよう努力しており、就職活動や進路対応、はたまた部活動まで協力できるものは何でも協力できるように考えております。そのためには支部内の各市町村の行政機関や商工会、病院、警察署、消防本部、自衛隊などとネットワークを結ぶことも重要な活動と捉えております。

そのためには小さな努力の積み重ねが必要ですが、ここをしっかりと行うことで、地域の未来をけん引する人材を育てていくことにつながっていくと確信しております。

旭川支部

支部長/開田 仁司

日頃より旭川支部の運営に多大なるご支援を賜り心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

新型コロナウイルスの話題が出るようになってから、早いもので2年の歳月を重ねて来ましたが、未だ終息の兆しどころか拡大の危機をまた迎えている状況にあります。旭川支部も他支部様と変わらず多大な影響を受けながらの各会員校の運営が行われているところであります。

ただ、その影響により前年度から「次世代人材職業体験講座」を受講される中学校の数が大変多くなり、コロナ感染を注視しながら、各中学校の生徒の皆さんの希望する講座を実施しているところであります。この事は色々な意味で各会員校の励みにもなり、少し活気のない状況下のなかで、中学生の皆さんの元気で活気のある姿に触れることができ、また熱心な学ぶ姿を見て、私たちも新たに力を頂いている状態です。

また、支部といたしましても、今後も地域貢献などを積極的に行うことによって、より多くの地域住民の方に、専修学校や各種学校の取り組みを理解していただき各校の発展に寄与してまいりたいと存じますので、より一層のご協力を各方面から頂きますよう、よろしくお願ひいたします。

北見支部

支部長/柏尾 典秀

日頃より北見支部の運営に多大なるご支援を賜り心よりお礼申し上げます。本年も変わらぬご指導のほどよろしくお願ひ申し上げます。

昨年も、新型コロナウイルスの感染拡大が収まらず、二度の緊急事態宣言が発出されるなど、日本を含め世界中で、経済活動・社会活動・スポーツ・芸術・文化活

動等あらゆる分野で大きな影響が生じました。その一方では東京2020オリンピック・パラリンピックの開催、メジャーリーグでは大谷選手の二刀流の活躍など日本中が元気になる快挙がありました。しかしながら昨年末、世界では新たな変異株が確認されるなど、感染拡大について予断をゆるさない状況が続いており、今後も、新型コロナウイルスの感染症予防対策には注視しながら各校の運営に努めなければなりません。

■2年ぶりのスポーツフェスティバルの開催■

さて、専修学校生のスポーツの祭典「令和3年度北専各道北見支部スポーツフェスティバル」を5月11日、道立北見体育センターにて開催いたしました。この祭典は、職業教育に取り組む専修学校生が普段とは違う環境の中で、専修学校相互の交流とスポーツを通して協調性や信頼感の醸成を目的としており、学生生徒も楽しみにしている行事でもあります。



昨年度は、新型コロナウイルス感染症における緊急事態宣言により、中止となりましたが、今回は感染対策を万全にした中での開催となりました。ソフトバレー・大玉転がし・玉入れの3種目で競い合い、普段交流する機会が少なかった379名の学生生徒もこの日ばかりは満足した笑顔を見せていました。

■次世代人材職業体験講座の前年比2.76倍■

平成21年度から専修学校で実施されている、道内の中学生を対象とした職業体験「次世代人材職業体験推進事業」ですが、将来の夢の実現に向けて、中学生に望ましい職業観や勤労観の育成のために、職業体験の場を提供するものですが、各中学校でも多くの行事がコロナ禍で中止になる中、支部管内での感染状況が少ないこともあり、北見美容専門学校・北見情報ビジネス専門学校・オホーツク社会福祉専門学校の3校において、昨年比で中学校数15校⇒21校、講座数35講座⇒60講座、中学生の総数は268名⇒741名と約2.76倍の参加がありました。(※今年度は12月末現在数)



支部といたしましても、本年も引き続き専修学校生の学びを最優先に、なお一層の研鑽に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、コロナ禍が一日でも早く終息し、穏やかな学校生活が戻ることを願うとともに、皆様にとりまして実り多き年になりますよう祈念いたします。

道東支部

支部長/北上 俊幸

日頃より道東支部に対しまして多大なるご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

令和元年からまる2年が過ぎた今なお、感染症の勢いは衰えず、感染症対策に追われている日々を送っております。新生活様式、新学校様式で各校、感染症対策をとってきた年度となり思うように活動が出来なかったことは、非常に残念でしかたありません。この状況が一日でも早く終息へ向かい、また平穏な学校生活を過ごせるよう心から願っております。

今年度の道東支部の活動であります、3月に「北専各連進路相談会」をコロナ過の中、何とか無事に開催することができたのも皆様のご協力のおかげと感謝を申し上げます。5月には道東支部加盟校で学生応募のポスターを作製しました。

しかし、予定されていた教職員研修会は、残念ながら延期ということになりました。

各校の活動としましては、釧路理容美容専門学校では6月に理容美容甲子園に出場し、7月に校内フォトコンテストを開催しました。また10月には美容学生ワインディングオンラインバトルに参加し、1月には2年生を対象にテーブルマナー研修を行いました。

くしろせんもん学校ではこども環境科で「絵本の世界」と題し、毎年、人形劇や音楽劇の実践発表を行ってきました。少人数のグループで園へ出向いて発表を行う予定でしたが、コロナの感染拡大の影響で、発表内容を録画撮影し、園児にプレゼントしました。また、介護環境科は「障がいの理解」という科目の中で「釧路鶴野支援学校」と授業見学での交流や、オンライン授業の配信のやり取りを重ね、互いの学校についての学びをより深めました。

胆振日高支部

支部長/澤田 真奈美

日頃より胆振日高支部の運営に多大なるご支援を賜りますこと心より御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染が全世界で猛威を振るい始めて3年目となりますが、現在もオミクロン株が急速に感染拡大し、これまでの社会の生活様式が一層、大きく変わっている真っ只中にあります。

日本の企業に於いても、この「時代の変化」に対応して生き残る企業と、そうでない企業が明確になる「グレートリセット」が始まっておりますが、現在、地方における私学は、それぞれ、各種学校・専修学校として生き残るための決断と変化に向かうことが重要であると考えております。

これからの学校運営のあり方ですが、学校責任者、そしてそこに従事する教職員、関係者の皆様お1人お1人が、この事態を深く理解し一丸となってこの変化への対応を行うことも大変重要なポイントではないでしょうか。

このような時代であるからこそ、地方を拠点とする各種学校・専修学校は、時代に適合する「新たな価値観」を創造しながら、「ウィズコロナ」から「アフターコロナ」を見据えた人材育成に取り組む必要があると考えております。

私どもの使命は、いつも、このような社会の変化に適応できる質の高い人材を育成することによって日本社会に貢献することであると確信しております。

今年も、支部会員校の皆様のお力を賜りながら、専修学校各種学校は、地域社会から、「信頼される教育機関」として持続させて頂くための礎を築き上げる努力を重ねて参りたく存じ上げますので、一層のご協力を賜ります様よろしく申し上げます。

お知らせ

令和4年度北専各連通常総会	令和4年6月3日(金) 13時 札幌ガーデンパレス 2階「孔雀」
第64回北海道私立専修学校各種学校教育研修大会	令和4年9月5日(月) 13時30分 ～6日(火) 11時15分 札幌ガーデンパレス 2階「丹頂」

会員校の動き

【入会】 学校法人ジオパワー学園
掘削技術専門学校(所在：白糠町)

2022 専門学校等進路相談会のご案内

新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を講じて、
次の会場で開催いたします

開催地	開催日時	会場
札幌	4月28日(木) 15:30~18:30	札幌パークホテル

- 札幌会場は「NPO法人高校生進学支援の会」との共催となり、併せて「進学マネー講座」を開催します。
- 3月に予定していた「北見」「釧路」会場は、コロナのまん延防止等重点措置期間の延長に伴い、開催を中止しました。



教員が踏み込みにくいお金の話は弊会にお任せください

進学マネー講座 & 進学相談会

大学・短大 専門学校

バス・タクシーを手配! 貴校⇄会場を無料送迎いたします。

裏面が「バス・タクシー申込書」になっています。

最少催行人数8名[教員含む] 要事前申込
※遠方の高校はご相談ください。

〈 弊会の新型コロナウイルス感染防止の取組み 〉

- 入場者全員にマスク着用をお願いします。非着用者には弊会のストックを支給します。
- 来場時に検温を実施いたします。37.5度以上の方は入場をお断りします。学校関係者・弊会スタッフも同様の措置をとります。
- 入場時にアルコール消毒を依頼、徹底します。また、会場内にも十分な数を設置し消毒を促します。

- 会場備品はすべてアルコール消毒を実施。また、会場内は30分に一度の換気を行います。
- 「進学マネー講座(講演)」は都度全席、消毒作業を実施します。
- ブースごとに飛沫防止パネルを設置します。また、通常時より設置ブースの間隔をとります。

※生徒を対象とした講座ではありますが、保護者の皆様にも聴講いただきたく存じます。ぜひ、進学マネー講座を保護者へもご案内ください。

4/28(木)

開催時間 15:30~18:30

開催場所 札幌パークホテル [B2F(パークプラザ)]
札幌市中央区南10条西3丁目

進学相談

- ◇進学する意義や生涯資金
- ◇上級学校への進学資金
- ◇奨学金の詳細と借り方・返し方
- ◇大学独自の奨学金や特待生制度
- ◇高等教育の修学支援制度 など

進学マネー講座

- 授業時間での活用をご検討、または当日午前授業などで早めの時間をご希望の場合、実施予定日以外に「進学マネー講座」を設定することも可能です。お気軽にご相談ください。
- バスには保護者の乗車、または保護者専用のバスを手配することも可能です。
- 本イベント開催日の前に事前学習として講演を承ることも可能です。ご相談ください。

※開催時間・内容は予告のため変更になる場合があります。予めご了承ください。

国公立大学を含む約100校の
大学・短大・専門学校
進学相談 (予約不要・入退場自由)

進学資金や奨学金制度を解説
進学マネー講座
14:50/16:30/17:20
各約40分

高校生進学支援の会 北海道高等学校・専修学校連絡協議会

経済産業省北海道経済産業局、厚生労働省北海道労働局、北海道、北海道教育委員会、北海道高等学校進路指導協議会、北海道私立中学高等学校協会

無料送迎バスのお申し込み・お問い合わせ

0800-8000-950

札幌市東区北6条東3丁目3-1 LC北6条館4F